

# One step to "scientist"

## “若手研究者”から “研究者”へ Step by step。

Workshop for Young Scientists in Global COE

熊本大学グローバルCOEでは、人材交流の活性化と情報交換を目的として、英語を公用語とした「グローバルCOEリエゾンラボ研究会」を実施し、毎週水曜に他大学や研究施設から講師を招いてセミナーを開いています。この取り組みの一環として7月20日・27日、8月3日に、「グローバルCOEリエゾンラボ若手研究発表会」を発生医学研究所にて開催。普段は研究者の発表を聞く側のCOEジュニア・リサーチ・アソシエイト(Jr.RA)およびCOEリサーチ・アソシエイト(RA)総勢25名がそれまでの研究成果を発表しました。今回も発表や質疑応答はすべて英語で交わされ、それぞれの研究成果について活発な議論を展開。このような経験を積みながら、熊本大学グローバルCOEの“若手研究者”たちは“研究者”の階段を上っています。



未来の研究者たちと“学び”を共にすることは  
“研究者道”への第一歩です。

Young Scientist

鬼武 彰宣

Akinebu Ontake

分子細胞制御分野

博士課程3年

G-COE Jr.RA

今回の「グローバルCOEリエゾンラボ若手研究発表会」は例年の形式とは異なり、COE Jr. RAおよびCOE RA全員が発表を行った。発生医学研究所にはポスドク・学生が多数在籍しており、普段から研究棟ではよく挨拶を交わすのだが、実際は一体どのような研究を行っているのか、あまりよく分かっていないのが現状だった。そんな中、今

回の研究発表を通じてたくさんの若手研究者の研究分野に関する話を聞くことができ、「なるほど、○○さんはこんなことやっているのか」とつたないリスニング力ながらもフォローできた(ハズである)。

自身の発表では、発生研の中でもかなり異色な研究テーマを、どうすれば分かりやすく理解してもらえるだろうかと頭を捻りつつも、あまり慣れていない口頭発表に加え、英語での発表ということもあって発表は多々不満の残るものであった。しかしながら、今回の発表会を通してこれから世界で活躍される方々と時間を共有し、交流できたことは今後の自身の活動にとって非常に貴重な経験となった。